



おぐら  
尾倉

<校訓>  
自主  
創造  
協力



令和3年10月6日(水)発行  
校長 栗原博巳  
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号  
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
  - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
  - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

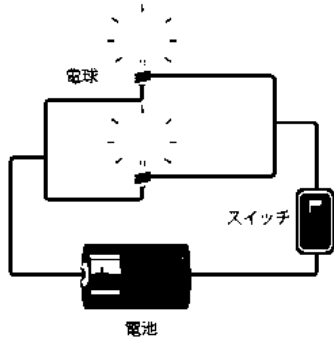
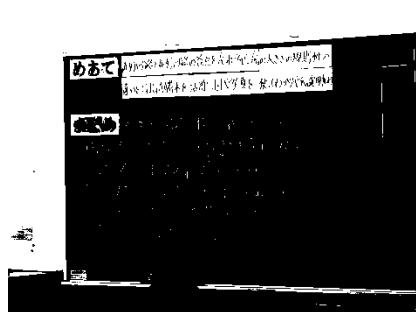
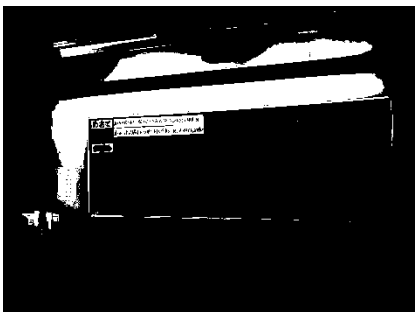
## 授業づくり共同研究（2年理科）

10月4日（月）5校時に授業づくり共同研究（理科）の公開授業が2年2組で行われました。

単元は「電流とその利用」で、主眼は「直列回路と並列回路の各点を流れる電流を調べる実験の結果を分析して解釈することを通して、それぞれの回路における各点を流れる電流大きさの規則性を説明することができるようにする」です。新学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学びの工夫」としては、以下の3点に焦点化し、授業を行いました。

- 前時の結果を視覚的にとらえて、興味・関心を持ち、自分の考えを練り上げ、よりよい表現を模索できるように、導入でGIGA端末を活用し、前時の実験結果を配信して問題提起する。
- 多様な考え方にふれ、新たな視点を見つけたり、角度を変えて考えを深めたりすることができるように、GIGA端末のスカイメニュークラウドの発表ノートを活用し、他人と意見を共有する。
- 考えを広げ、深めて課題を解決する力を身につけるために、端末に揺さぶりを持たせる発展課題を与え、生徒に疑問をもたせる。

2年2組の生徒はタブレット端末を使いながら、説明資料を一生懸命に作成していました。



☆本時においてICTを活用する場面

	活用場面	活用方法・ポイント	期待される子どもの姿
1	導入でGIGA端末を活用し、前時の実験結果を配信し、問題提起する <(GIGA端末)>	前時の実験の結果をGIGA端末で配信する。	視覚的に捉えることにより、興味・関心をもつ。
2	課題に対して考えを書く場面<(GIGA端末)>	班で共有した後、個人でわかりやすい説明を考える。	個人の考えを適切に表現することができる
3	課題に対して考えを表現する場面<(GIGA端末)>	個人の意見をGIGA端末を使ってわかりやすく説明する。	個人の考えをわかりやすく表現することができる

☆展開

	主な学習活動	○ 指導上の留意点【観点】評価規準(評価方法)
導入	1 前時の実験を振り返り、自分の考察を振り返る。	○ 前時の結果をGIGA端末で配信し、個人の考察を想起させる。 ★活用場面1 ○ 導入でGIGA端末を活用し、前時の実験結果を配信し、問題提起することを通して主体的な学びを促す。 ○ 個人の考察を全体にわかりやすく説明するためにはどのようにしたらよいか問う。
	めあて 直列回路と並列回路の各点を流れる電流の大きさの規則性の違いを、GIGA端末を活用し、図や写真を使ってわかりやすく説明しよう	
展開	2 実験の結果から考察を考える。 (1) 個人の考察をもとに班で情報共有する。 (2) 共有した意見をもとに個人でわかりやすい説明を考える。  3 個人で考えた説明を隣の人と共有する。 GIGA端末を使って自分の言葉でわかりやすく説明する。	★活用場面2 ○ 水の流れや人の流れに例えて、イメージをもたせながら説明することを促す。 ○ GIGA端末で、実験の画像や回路図を活用して説明資料をまとめ、表現できるように促す。 ○ GIGA端末のスカイメニュークラウドの発表ノートを活用し、「グループ機能」を使って他人と意見を共有させながら対話的な学びを促す。  ★活用場面3 ○ 作成した資料を用いて、考えた説明を自分の言葉でわかりやすく聞き手に伝えられるように促す。 【思】回路の各点を流れる電流を調べる実験の結果を分析して解釈し、回路の各点を流れる電流の規則性を見だして根拠を示し、自分の言葉で表現している。(スカイメニュークラウド発表ノート)
終末	4 本時のまとめ、振り返りを行う。	○ まとめの際にいくつかのキーワードを生徒に発言させ、生徒の言葉でまとめる。
	まとめ 直列回路では、回路のどの点でも同じ電流の大きさだが、並列回路では、道筋が枝分かれしている部分の大きさの和は、枝分かれしていない部分の電流の大きさと等しい。	
	○ 豆電球が3個になってもこの法則が成り立つのか問うて、次時への課題とする。	○ 終末に発展課題を与え、生徒に疑問をもたせて、授業に揺さぶりをかけて終える。

プレゼンを使って自分の考えを発表することは今後の学習の中心になるかもしれませんね。